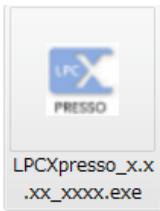


スタート

LPCXpresso IDEをダウンロードします。
次のURLから、CodeRed社のユーザ登録ページへ進み、
アカウント作成後に表示されるダウンロード・リンクから
「LPCXpresso IDE」をダウンロードします。
Windows版、Mac OS X版、Linux版があります。
<http://lpcxpresso.code-red-tech.com/LPCXpresso/>



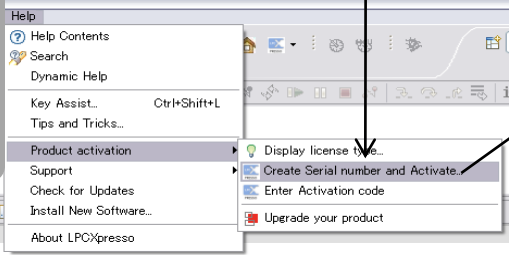
ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始、インストーラWizerdに従ってインストールを完了します。



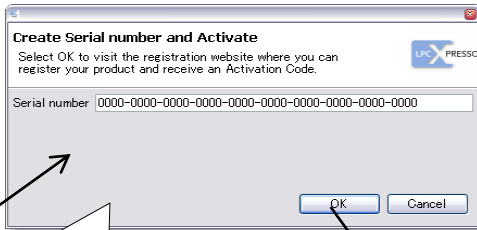
使用を開始する前に…

アクティベーションを行わない場合、
デバッグコードサイズは8KBに
制限されます

このソフトウェアを使用するには「アクティベーション」が必要です。
LPCXpressoを起動し、メニューから、
"Help" → "Product activation" → "Create serial number and register"
を選択します。

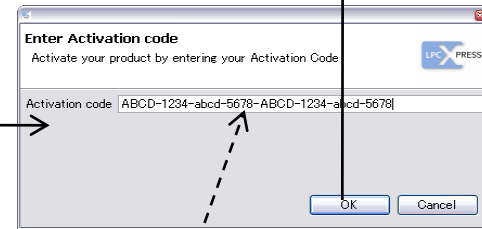


このシリアル番号はご使用のPCのOSとハードウェアから作られたもので、個人を特定する情報を含んでいるものではありません。



完了

この後、「OK」ボタンを押すと完了です 😊

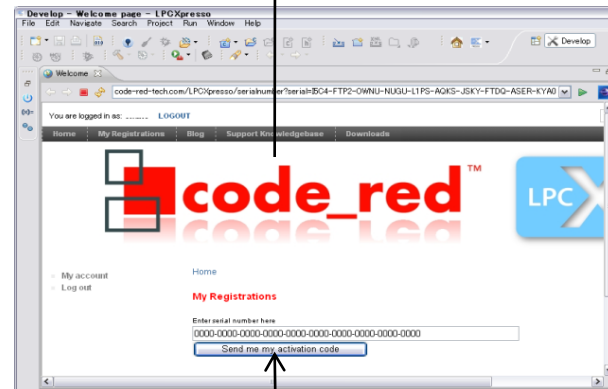


届いたアクティベーション・コードを、IDEの
"Help" → "Product activation" → "Enter activation code"
で表示される入力ウィンドウ内の欄に記入。「OK」ボタンを押すと完了です。

From: lpcxpresso@code-red-tech.com
Subject: LPCXpresso: Your activation code

Thank you for registering your product with serial number:
0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000.
Your activation code is:
ABCD-1234-abcd-5678-ABCD-1234-abcd-5678

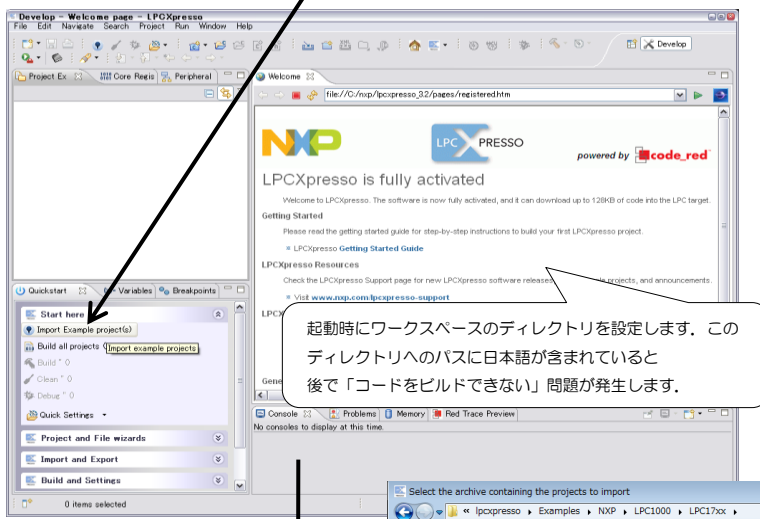
To activate LPCXpresso, start the product and open the menu Help->Product Activation->Enter Activation code.



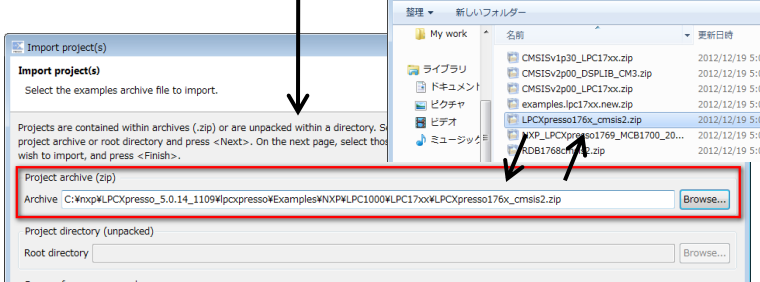
LPCXpresso IDE内に「アクティベーション/登録」ページが表示されます。このページに必要事項を記入し送信すると数分で✉が届きます。

スタート

前ページのアクティベーションが完了したら、いよいよビルドと実行です。LPCxpressoを起動すると下のようなウィンドウが開きます。このウィンドウの左下のペイン内、Quickstart下の「Import Example project(s)」をクリックします。



起動時にワークスペースのディレクトリを設定します。このディレクトリへのパスに日本語が含まれていると後で「コードをビルドできない」問題が発生します。



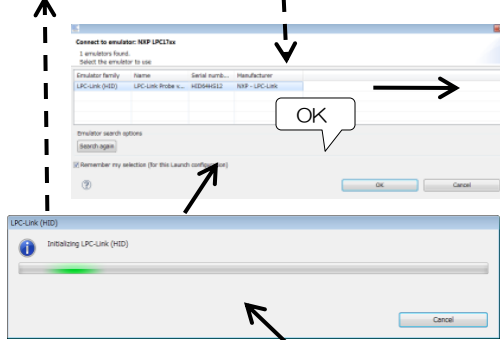
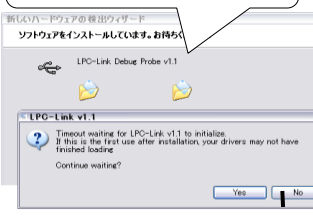
LED点滅のサンプルを選択してみましょう。下記のzipファイルを選択し「Next」ボタンをクリックします。
 C:\nxp\LPCxpresso_5.0.14_1109\pcxpresso\Examples\NXP\LPC1000\LPC17xx\LPCxpresso176x_cmsis2.zip

LPC1115の場合、「LPC11xx」フォルダ内のLPC1114向けファイルの中から選択ください。デバッグ前にMCU settingをLPC1115に変更。IDE上部ツールバー内にある「MCU」と書かれたアイコンを押し、ターゲットを「LPC1115/303」へ変更。
 LPC11C24の場合も、「LPC11xx」フォルダ内のLPC11C24向けファイルを選択。
 LPC1347の場合、「LPC13xx_12bitADC」フォルダから選択ください。

LPC1114のプロジェクトをLPC1115で使いたい、LPC1343のプロジェクトをLPC1347で使いたい方は www.nxp-lpc.com ^.

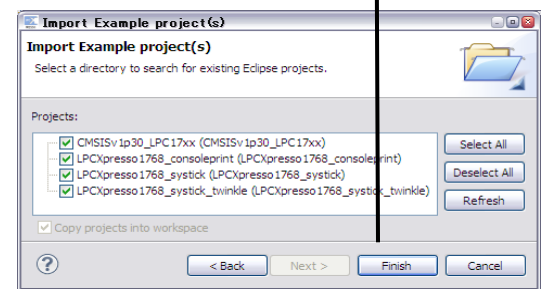
ここではLPC1769をターゲットした場合の例を示しています。他のLPCxpressoボードをお使いで、xxxx_cmsis2.zipがない場合はNXP_LPCxpressoxxxx_xxxx.zip、LPCxpressoxxxx.zip または exsample.xxxx.zipを選んでください。CMSISxxxx.zipは選ばないでください。

初回はドライバのインストールが行われます。



ウィンドウの左上のペイン内、Project Explorerの下にプロジェクトが表示されます。次に、
 (1) 「LPCxpresso176x_cmsis2_systick」を選択します
 (2) ウィンドウの左下のビュー内、Quickstart下の「Debug 'LPCxpresso176x_cmsis2_systick' (Debug)」をクリックします。(blinkyの場合は「Debug 'blinky' (Debug)」)

この前に、PCのUSBポートに基盤を接続しておいてください。

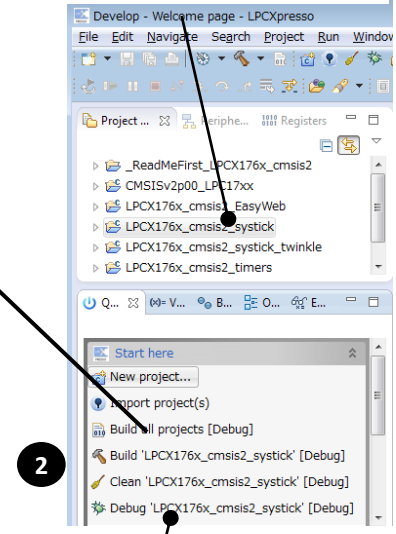
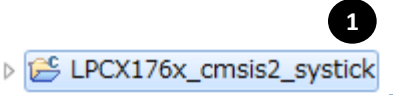
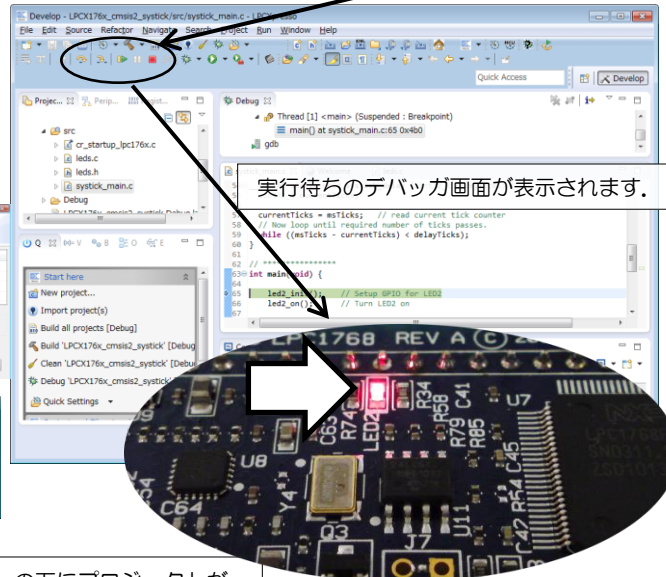


インポートするプロジェクトの選択を促されます。xxxx_systick または blinky というファイルが含まれていることを確認してください。なければ、戻ってインポートファイルを選択しなおしてください。デフォルトはzipファイル内の全てのプロジェクトを選択した状態になっているのでそのままFinish.

緑(三角)のボタンを押すと基板上的LED(LED2)が点滅します



実行待ちのデバッガ画面が表示されます。



Debug 'LPC176x_cmsis2_systick' [Debug]